


Piamate Plus

RB-9000
取扱説明書

このたびは「消音ピアノユニット Piamate Plus (ピアメイトプラス)」を
お買い上げいただきまして誠にありがとうございます。
本機の機能を十分にご理解いただき、末永くご愛用いただくために
この取扱説明書をよくお読み下さるようお願い申し上げます。
尚、本書の内容は改善のために予告なく変更することがあります。

目 次

1. 特長	1
2. 使用上のご注意	2
3. 各部の名称	3
4. 使用方法	5
5. デモ演奏を聴く	6
6. 音色設定	7
7. 録音と再生	9
7-1 録音	9
7-2 再生	10
8. エフェクト、トランスポーズ設定	12
8-1 エフェクト設定	12
8-2 トランスポーズ設定	13
9. メトロノームを使う	14
10. 設定と調整	16
10-1 タッチ調整	17
10-2 黒鍵音量調整	18
10-3 各鍵音量調整（左44鍵盤）	19
10-4 各鍵音量調整（右44鍵盤）	20
10-5 チューニング	21
10-6 鍵盤深さ設定	22
10-7 ペダル調整	23
10-8 鍵盤連打設定	24
10-9 センサー調整	25
10-10 工場出荷設定	26
11. スマートフォン接続	28
11-1 iPhone接続	28
11-2 Android接続	30
12. USB	33
13. Bluetooth MIDI	33
13-1 MIDIインプリメンテーションチャート	34
14. 本体仕様	35
15. 故障かな？と思ったら	36
16. 末永くご使用頂くために	38
17. アフターサービス	38

1. Piamate Plusの特長

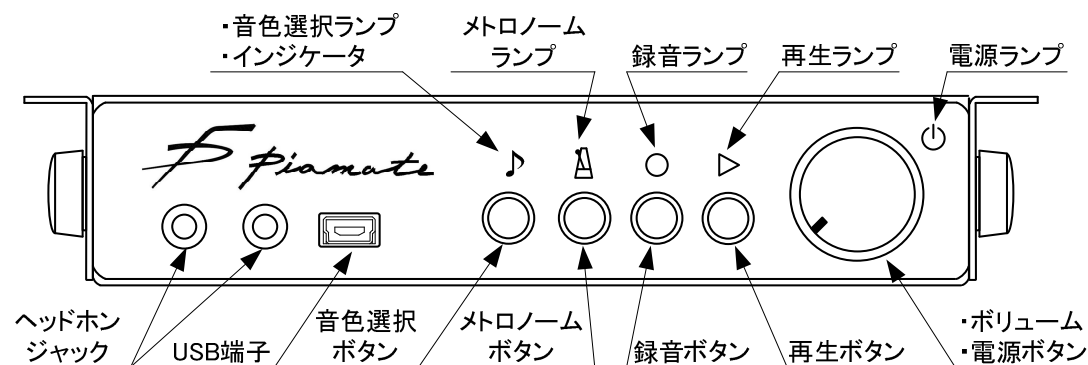
- リアルで高音質な音色やアコースティックピアノに近いタッチ感を再現し、お手持ちのアコースティックピアノに後付けできるピアノ消音機です。
- iPhone、iPad、Android端末と無線で接続できる専用アプリがご利用できます。
 - ・録音/再生、メトロノーム、音色選択などの操作がスマートフォンの画面で見やすく簡単に行えます。
 - ・演奏データをピアメイトからスマートフォンへ転送することができ、メールでお友達に送ったり、新たな演奏データを取り込んでピアメイトで再生することもできます。
 - ・スマートフォンに取り込んだ演奏データは、iTunesやファイルエクスプローラなどでファイル管理が可能です。
- 市販のUSBケーブル(A-miniB)にてパソコンと接続ができます。パソコン接続により、本機はMIDI音源やMIDIキーボードとして使用可能です。
- 鍵盤の浅い打鍵や深い打鍵まで幅広い範囲で発音しますので、よりアコースティックピアノに近いタッチを実現しています。
- 高速なトリル奏法やスタッカートが可能です。
- ピアノッシモからフォルテッシモまで幅広い音量変化を表現します。
- 押されている鍵盤の弦の共鳴やダンパーペダルを踏み込んだときの弦の共鳴を再現していますので、豊かな響きを楽しめます。
- ダンパーペダルは踏み込まれた量に合わせてダンパー機能が働きます（プロポーションナル）。
- ボタン操作で8音色、鍵盤操作で88音色から演奏する音をお選びいただけます。また、スマートフォンの専用アプリをご利用いただくと最大128音色から演奏する音をお選びいただけます。
- 内蔵のメトロノームに合わせて演奏ができます。
- 演奏の録音、再生が可能です。また、再生速度の変更も可能です。
- 大容量メモリを搭載し、コンサートグランドピアノの繊細な音色や強弱の変化、美しい余韻を忠実に再現しています。
- Bluetooth MIDI規格に対応し、無線でMIDIデータのやり取りができます。
- 演奏しない時間が一定時間あった場合、自動で電源をオフする機能があります。（専用アプリで設定可能）

2. 使用上のご注意

消音ピアノユニットを末永くご愛用頂くために、次の注意事項を守ってご使用下さい。

- 付属されているACアダプタ以外でのご使用や、ACアダプタに記載された電圧範囲以外でのご使用は絶対におやめ下さい。故障の原因となります。
- 付属のACアダプタは本製品専用ですので、他の製品へのご使用は絶対におやめ下さい。
- ACアダプタの抜き差しは、コードを引っ張ったり、ぬれた手では行わないで下さい。また、コードを無理に曲げたり、重い物を乗せないで下さい。
- ACアダプタおよびユニット間の各ケーブルを抜き差しされる場合は、必ず電源をオフにして行って下さい。
- 長時間ご使用にならないときは、必ずACアダプタを抜いて下さい。
- ヘッドホンプラグの抜き差しは、プラグを持って行って下さい。無理に力をかけるとコードの断線により音が出なくなることがあります。
- 高温多湿な場所は避けて下さい。また、本機は多少発熱することがありますが、故障ではありません。
- 強い衝撃を与えたり、異物（硬貨や針金など）または液体（水、ジュース、酒など）を入れないように注意して下さい。
- 分解や改造はしないで下さい。
- お手入れの際は、必ずACアダプタをコンセントから抜き、柔らかい布で軽く拭き取って下さい。また、ベンジンやシンナーで拭くことはお避け下さい。

3. 各部の名称



音源BOX前面

ボリュームと電源ボタン

電源ボタン

電源のオン/オフを行います。

注意！ ご使用後は必ず電源をお切り下さい。

ボリューム

ヘッドホンの音量、ライン出力の音量を調節します。左に回すと音量が小さくなり、右に回すと音量が大きくなります。

電源ランプ

電源がオンになっているとランプが点灯します。また、スマートフォンと接続している場合は点滅します。

ヘッドホンジャック

ヘッドホンを接続します。同時に2つのヘッドホンが使用できます。左側にヘッドホンを挿しますと、ライン出力端子は音が消えます。

USB端子

USBケーブルを使用してパソコンと接続できます。

音色選択ボタン

発音する音色を選択します。

ピアノ、ブライトピアノ、メローピアノ、エレクトリックピアノ 1、FMエレクトリックピアノ、チャーチオルガン、ウォームオルガン、パーカッシブオルガン

音色選択ランプとインジケータ

音色選択ボタンを押して音色を変更したときや発音したときに点滅します。

メトロノームボタン・メトロノームランプ

メトロノームボタン

メトロノームの設定、開始、停止するボタンです。

メトロノームランプ

メトロノームの動作中、設定中をランプで表示します。

再生ボタン・再生ランプ

再生ボタン

録音曲の再生やデモ曲の再生を開始、停止するボタンです。

再生ランプ

再生中をランプで表示します。

録音ボタン・録音ランプ

録音ボタン

録音を開始、停止するボタンです。

録音ランプ

録音中をランプで表示します。



音源BOX背面

DCジャック

付属のACアダプタを接続します。

注意! 付属品以外のACアダプタは、絶対に使用しないで下さい。

ライン出力端子

音源BOXの音を外部オーディオ機器へ出力します。

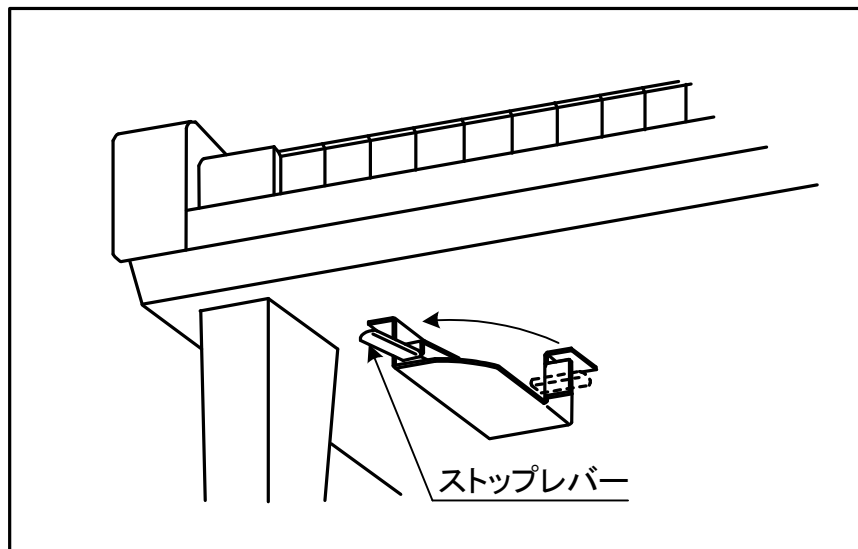
音源BOX前面にあるボリュームにて出力レベルを調節できます。

左側のヘッドホンジャックとの同時使用はできません。

4. 使用方法

本製品は、取り付け完了後に初期設定を実施しなければ、正常に動作致しません。鍵盤やペダルの移動量はユニットを取り付ける場所で異なりますので、その取り付け場所に最適な鍵盤の発音位置やペダルのオン／オフの位置決めを初期設定で自動的に行います。尚、初期設定は取り付ける技術者や調律師が行います。

- (1) ピアノの実音を消すときは、ストップレバーを手前に引きます。元に戻すと、通常のピアノ演奏ができます。



ストップレバーの操作

- (2) ACアダプタがコンセントに差し込まれていることを確認して下さい。
- (3) ボリュームが最小であることを確認して、電源ボタンをオンにします。電源ボタンをオンする際、センサーを最適化しますので、鍵盤やペダルには触れないようにして下さい。
- (4) ヘッドホン（付属）をヘッドホンジャックへ接続します。
- (5) 音色選択ボタンで好みの音色を選択します。
- (6) ボリュームをお好みの位置に合わせヘッドホンで演奏をお楽しみ下さい。ダンパーペダルのみハーフペダルに対応しています。
- (7) スマートフォンやタブレットをお持ちの方は、音源BOXと無線接続（11章のスマートフォン接続を参照）することで、簡単に操作や設定が端末からできるようになります。

5. デモ演奏を聴く

音源BOXには生演奏を収録したデモ曲が10曲入っています。

曲順	曲名	作曲者
1	プレリュード(平均律第1巻 第1番)	J. S. バッハ
2	エリーゼのために	L. v. ベートーヴェン
3	月光(第一楽章)	L. v. ベートーヴェン
4	Shenandoah	アメリカ民謡
5	Danny boy	アイルランド民謡
6	I love you, porgy	ジョージ・ガーシュイン
7	Someday my prince will come	フランク・チャーチル
8	All the things you are	ジェローム・カーン
9	Someone to watch over me	ジョージ・ガーシュイン
10	My wild irish rose	チャンセラー・オルコット

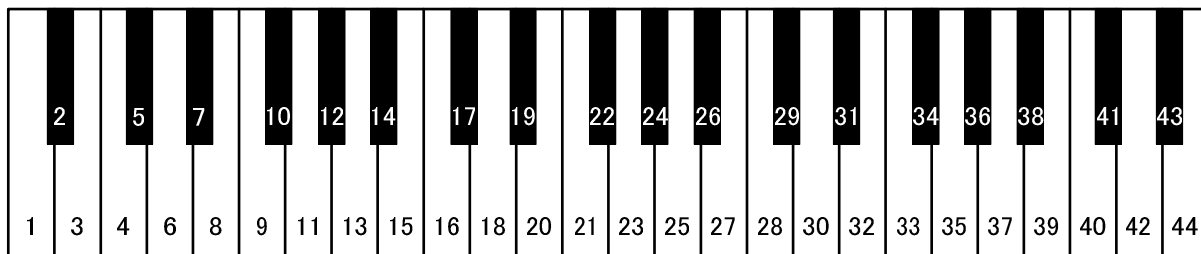
設定方法

- (1) 再生ボタンを長押しすると、再生ランプが点滅します。
- (2) 再生ランプの点滅後、1曲目から順に演奏を開始します。
デモ演奏中は下記鍵盤を押すことにより、曲を選択することができます。
- (3) デモ演奏を終了する時は、再生ボタンをもう一度押して下さい。

注意!

デモ演奏中に下記の曲選択鍵盤以外を押すことで、全鍵盤での演奏が可能になりますが、曲の選択はできなくなります。再び曲を選択したい場合は、デモ演奏を終了して(1)の手順から再度行ってください。

鍵盤左側



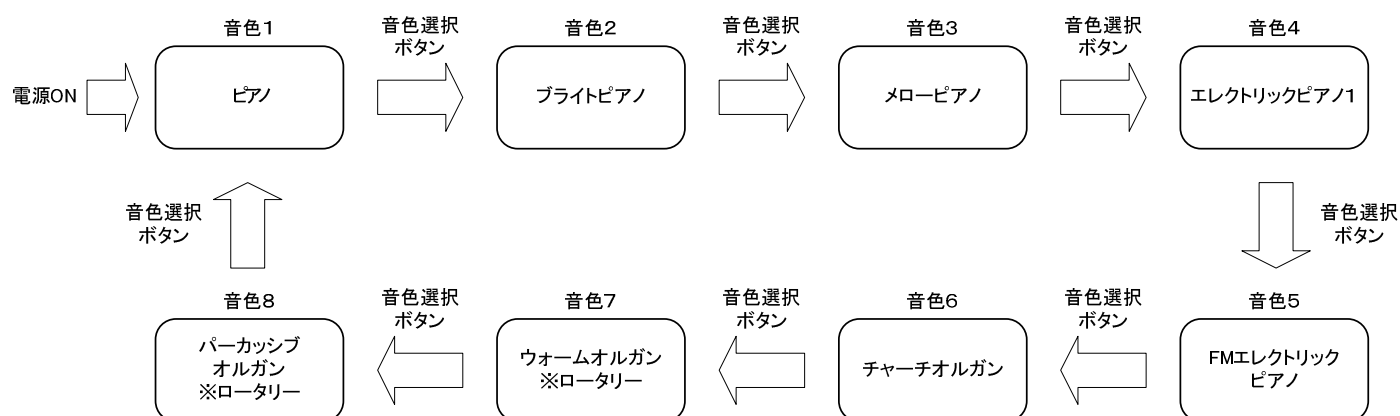
6. 音色設定

音色選択ボタンの操作では8種類の音色を素早く切り替えることができます。鍵盤の操作では88種類の音色から選ぶことができます。また、アプリを使用するとさらに多くの音色から演奏する音色を選択できます。

音色の中にはエフェクトが初めから設定されているものもあります。

音色選択ボタンによる音色選択方法（8音色からの選択）

音色選択ボタンを押す度に、次の図の順番で音色が変化します。



音色変更イメージ

鍵盤の操作による音色選択方法（88音色からの選択）

- (1) 音色選択ボタンを押したまま次頁鍵盤表より好みの音色を選択します。
- (2) 音色選択ボタンから指を離します。この時、選択した最後の音色が設定されます。

音色選択ボタンの音色変更方法

この機能はアプリを使用しますので、11章の「スマートフォン接続」をご参考に専用アプリをダウンロードしてください。アプリの「サウンド」タブ画面で、音色選択ボタンの音色を128音色から選んだお好みの音色に変更することができます。

注意！

- ・設定した音色は電源を切ると1番目の音色に戻ります。
- ・ロータリーのエフェクトがかかっている場合、ダンパーペダルは Slow ⇄ Fastの切り替え、ソフトペダルはSemi-Offになります。Semi-Off後、ダンパーペダルの操作でSemi-Off前のスピードで再開します。

ピアノ
ブライトピアノ
メロピアノ
ピアノ+ストリングス(Fast)
ピアノ+ストリングス(Slow)
ブライトピアノ+リバーブ
エレクトリックピアノ1
FMエレクトリックピアノ
ハーブシコード
チャーチオルガン
ウオームオルガン
パークジャズオルガン
エレクトリックピアノ2
ホンキートンク
エレクトリックピアノ3
クラブネット
チェレスタ
グロッケン
オルゴール
ピブラホーン
サントウール
ドローパーオルガン1
ドローパーオルガン2
ロックオルガン
スモールチャーチオルガン
リードオルガン
フレンチアコーデオ
ハーモニカ
バンドネオン
ギター(ナイロン弦)
ギター(スチール弦)
エレキギター(ジャズ)
コーラスギター
オーバードライブギター
ディストーションギター
アコースティックベース
フィンガリングエレキベース
スラップベース
シンセベース
バイオリン
チェロ
トレモロストリングス
ハーブ
ストリングス

1
3
4
6
8
9
11
13
15
16
18
20
21
23
25
27
28
30
32
33
35
37
39
40
42
44

鍵盤左端

スローストリングス
ストリングス+ホルン
シンセストリングス
コーラス
コーラス2
シンセボーカル
トランペット
トロンボーン
チューバ
フレンチホルン
ブラス+トランペット
シンセブラス1
シンセブラス2
シンセブラス3
シンセブラス4
ソプラノサククス
アルトサククス
テナーサククス
バリトンサククス
イングリッシュホルン
バスーン
クラリネット
ピッコロ
フルート
リコーダー
パンフルート
オカリナ
シンセリード2(鋸歯状波)
シンセリード5(チャラング)
シンセリード6(声)
シンセリード8(ベース+リード)
シンセパッド2(ウオーム)
シンセパッド3(ポリシンセ)
シンセパッド4(人声)
シンセパッド5(ボウ)
シンセパッド7(ハロー)
クリスタル
アトモスフィア
ブライトネス
エコー
シタール
琴
バグパイプ
スチールドラム

45
47
49
51
52
54
56
57
59
61
63
64
66
68
69
71
73
75
76
78
80
81
83
85
87
88

鍵盤右端

7. 録音と再生

演奏した内容の録音と再生が10曲まで行えます。連弾や反復練習などに便利です。

7-1 録音

使用方法

- (1) 録音したいバンクの鍵盤を押しながら、録音ボタンを押します。
このとき録音ランプが点灯します。これで、録音の準備が完了しました。
- (2) 演奏を行います。演奏が始まると同時に録音を開始します。
- (3) 演奏が終了したら録音ボタンを押します。押すと同時に録音ランプが消灯して選択されたバンクに収録されます。
- (4) (1)の操作において、バンクの鍵盤を押さなくても録音は可能です。
その場合、録音ボタンを押します。但し、自動的にバンク1に録音されます。

録音データ消去

録音した内容は、バンクを選択し、右ペダルを踏みながら録音ボタンを押すことでチャイムが鳴り、消すことができます。また、「11-10設定を初期化する」を行われた場合、録音データは全て消去されます。

注意!

- ・ バンク数は10バンクです。録音したバンクに新たに録音操作を行うと前回の録音内容は消えてしまいます。
- ・ 録音中の音色選択ボタンによる音色切り替えはできますが、録音される音色は録音開始時に選択された音色になります。
- ・ メトロノームは録音されません。
- ・ 録音容量は1バンク約10,000音ですが、ペダル操作も含みます。
録音中に録音容量がいっぱいになると、録音は自動停止されます。
- ・ 録音した内容は電源を切っても保存されます。
- ・ アプリから転送するMIDIファイルはフォーマット0のみです。それ以外
は転送できません。また、ファイルサイズは最大約128kBです。

7-2 再生

使用方法

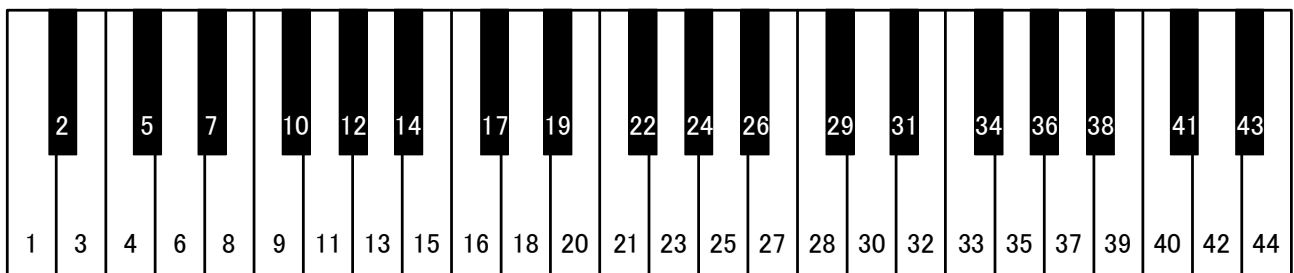
- (1) 再生ボタンを押すと、再生ランプが点灯して、約1秒後に演奏が再生されます。
この場合、バンク1のデータが再生されます。再生中は下記鍵盤を押すことにより、バンクを選択することができます。再生中も鍵盤からの演奏が可能です。
- (2) 再生を終了したい時は、再生ボタンをもう一度押します。
押すと同時に再生ランプが消灯して、再生が止まります。

注意!

- 再生中にバンク選択及び変速エリアの操作部以外の鍵盤を押すことで、全鍵盤での演奏が可能になりますが、バンク選択や変速再生の変更ができなくなります。バンク選択をする場合は、再生を終了して(1)の手順から再度行ってください。
- バンク1にデータがない場合は演奏が再生されません。その他のバンクを再生したい場合は、再生したいバンクの鍵盤を押しながら再生ボタンを押します。

※再生速度0.5倍～2倍まで変更できます（次頁の変速再生をご覧ください）。

鍵盤左側



変速再生

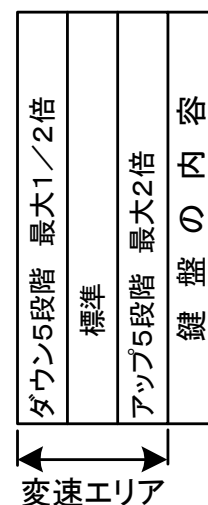
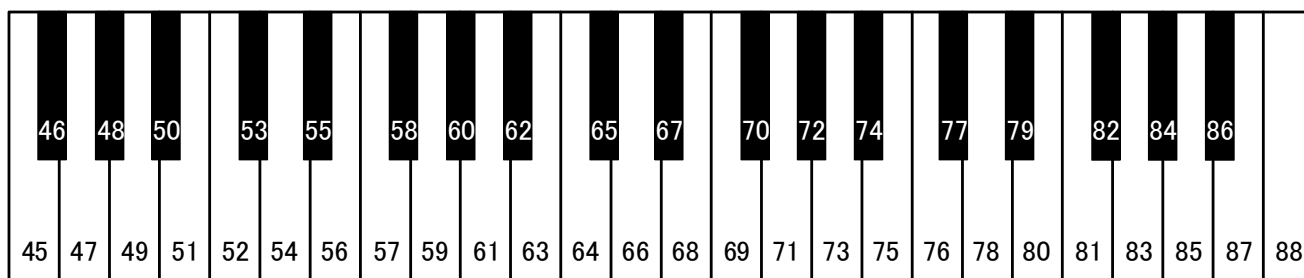
録音した演奏は再生速度を変えて聴くことができます。変速範囲は録音した演奏を標準として、0.5倍～標準～2倍まで±5段階です。

段階	-5	-4	-3	-2	-1	±0	+1	+2	+3	+4	+5
速度	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.2	1.4	1.6	1.8	2.0
	遅い	←————— 標準 —————→									速い

設定方法

- (1) 再生ボタンを押して録音した演奏を再生します。
- (2) 下記鍵盤表の`変速エリア`よりアップ鍵盤、ダウン鍵盤を操作してお好みの速度で再生して下さい。

鍵盤右側



8. エフェクト設定、トランスポーズ設定

8-1 エフェクト設定

エフェクト設定では以下の設定ができます。

- ① リバーブ : 種類（ルーム・ホール）と深さを設定
- ② コーラス／ロータリー : コーラス、ロータリー、ディレイの選択
／ディレイ : コーラスとディレイはレベルの設定ができます。

リバーブ : 音に残響を加えます。ルームは室内の響きでホールはコンサートホールの響きになります。

コーラス : コーラス効果を加えます。

ロータリー : ロータリースピーカの効果を加えます。

Slow ⇄ Fast の切り替えはダンパーペダルで行います。

ソフトペダルはSemi-Off（一時停止）になります。

ディレイ : やまびこのような反響を加えます。

設定方法

- (1) 音色選択ボタンを押しながらメトロノームボタンを押します。
設定モードになったことをチャイムでお知らせします。尚、2つのボタンは押さえたまま次の操作に移ります。
- (2) 次頁鍵盤表より`リバーブ`又は`コーラス／ロータリー／ディレイ`のどちらかから好みの設定を選択します。
- (3) リバーブ、コーラス、ディレイを選択した場合は`レベルの設定`でレベルの変更が可能です。但し、ロータリーを選択した場合はレベル変更できません。
- (4) 2つのボタンから指を離します。この時、(3)で選択した状態が設定されます。
- (5) (2)の操作で★印の鍵盤を押すことで標準値にリセットされます。

注意!

- ・ロータリーを選択するとダンパーペダルでSlow ⇄ Fastの切り替え、ソフトペダルでSemi-Offができるようになりますが、ペダル本来の機能はなくなります。
- ・(5)の操作ではトランスポーズ設定もリセットされます。
- ・電源を切ると設定値は初期値に戻ります。
設定を保存したい場合は、アプリのユーザープリセット機能をご使用下さい。

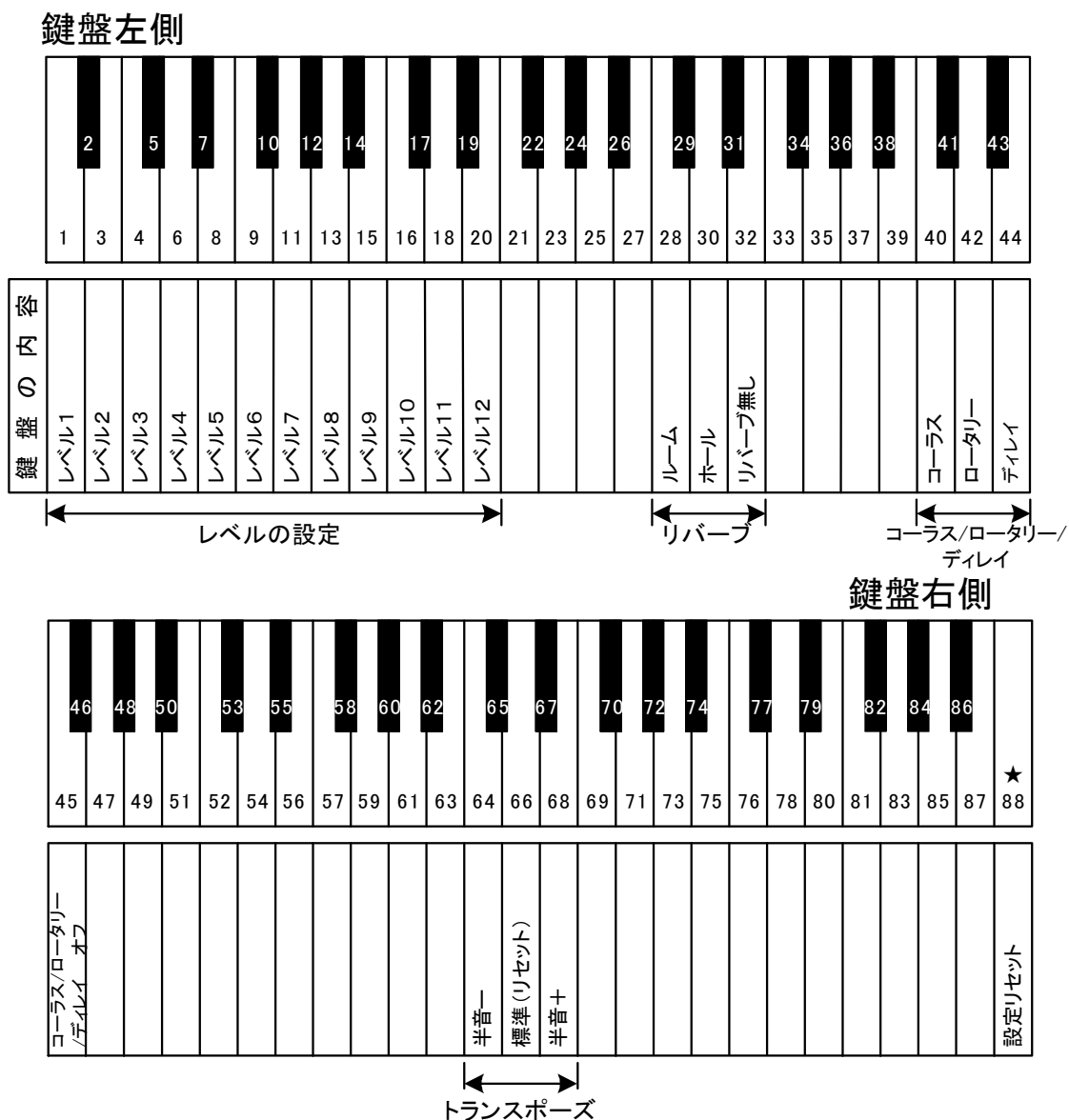
8-2 トランスポーズ設定

トランスポーズ設定は半音単位で移調ができます。設定範囲は2オクターブです。

設定方法

- (1) 音色選択ボタンを押しながらメトロノームボタンを押します。設定モードになったことをチャイムでお知らせします。尚、2つのボタンは押さえたまま次の操作に移ります。
- (2) 下記鍵盤表より好みで半音-、半音+を選択します。選択する毎に半音ずつ移調されます。
設定をリセットする場合は、標準を選択します。
- (3) 設定が終了したら、2つのボタンから指を離します。

注意! MIDI出力にはトランスポーズ設定は反映されません。



9. メトロノームを使う

メトロノーム音のON/OFF、拍子やテンポ、メトロノームの音量といった各設定を行います。

メトロノームを鳴らす／止める

- (1) メトロノームボタンを押すとメトロノームランプが点灯して、メトロノームが鳴り始めます。
- (2) メトロノームボタンをもう一度押すと、メトロノームランプが消灯して、メトロノームが止まります。

メトロノームの設定

- (1) メトロノームの設定を変えるには、メトロノームボタンを長押しします。メトロノームランプが点滅し、設定モードになったことをお知らせします。
- (2) 次頁鍵盤表の`拍子エリア`から拍子を選択します。
- (3) 次頁鍵盤表の`テンポエリア`からテンポを選択します。
テンポの選択方法は、テンポエリアに割り付けられている数字を3回選択します。設定できるテンポは30~250の範囲です。

・例1 テンポを132にしたい！

↓
初めに1を選択。
↓
次に3を選択。
↓
最後に2を選択。

・例2 テンポを60にしたい！

↓
初めに0を選択。
↓
次に6を選択。
↓
最後に0を選択。

- (4) 次頁鍵盤表の`音量エリア`からメトロノームの音量を選択します。
- (5) もう一度メトロノームボタンを押すと、メトロノームランプが点滅から点灯に変わり、設定が確定されます。尚、メトロノーム音は鳴り続けます。

注意！

- ・設定した内容は電源を切っても保持されます。
- ・テンポの選択で範囲外を選択した場合は無効になり、設定されません。

10. 設定と調整

Piamate Plusはお使いのピアノに合わせて様々な設定を変更することができます。

注意!

取り付け完了後、調律師の方がお客様のピアノに合わせて設定の変更を行います。また、「10-10 設定を初期化する」を実施されますと、正常に動作をしなくなりますので、ご自身で設定を変更される場合や、初期化をされる場合は、事前にお買い上げ店へご相談下さい。

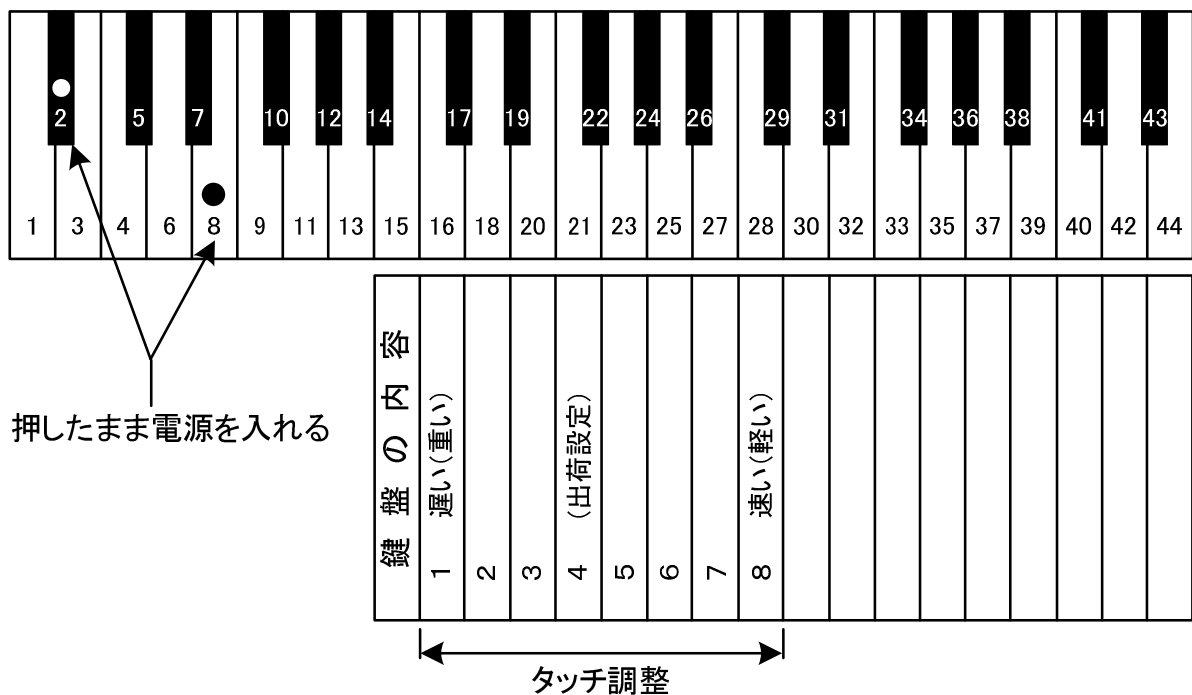
10-1 タッチ調整

ピアノの種類や型式によって、鍵盤の動きやすさが異なり、ピアノシモからフォルテシモまでの変化が出にくい場合がありますので、ピアノに合わせて調整して下さい。鍵盤の動きが遅い（重い）場合は1～3を、速い（軽い）場合は5～8に合わせます。尚、本機種はヤマハのU3型を基準としています。

設定方法

- (1) ○印と●印の鍵盤を押しながら電源を入れます。調整モードになったことをチャイムでお知らせします。尚、○印と●印の鍵盤は押したままで次の操作に移ります。
- (2) 下記鍵盤表より、適切なタッチ感になる`タッチ調整`を選択します。
- (3) タッチ調整の選択が終了したら、○印と●印の鍵盤から指を離します。この時、最後に選択したタッチ調整に設定され、電源を切っても変更されません。

鍵盤左側



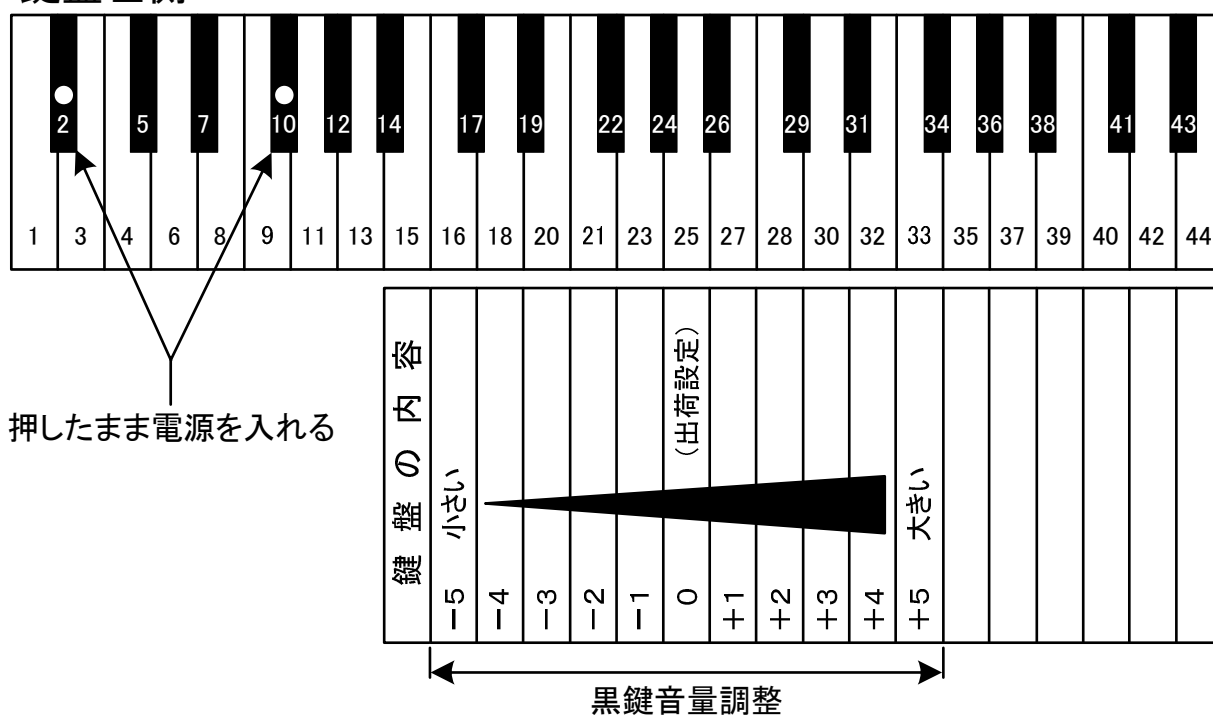
10-2 黒鍵音量調整

白鍵と黒鍵の音量バランスを調整することができます。

設定方法

- (1) ○印の鍵盤を押しながら電源を入れます。設定モードになったことをチャイムでお知らせします。尚、○印の鍵盤は押したままで次に操作に移ります。
- (2) 下記鍵盤表より、白鍵音量に合った`黒鍵音量`を選択します。
- (3) 黒鍵音量の選択が終了したら、○印の鍵盤から指を離します。この時、最後に選択した黒鍵音量に設定され、電源を切っても変更されません。

鍵盤左側



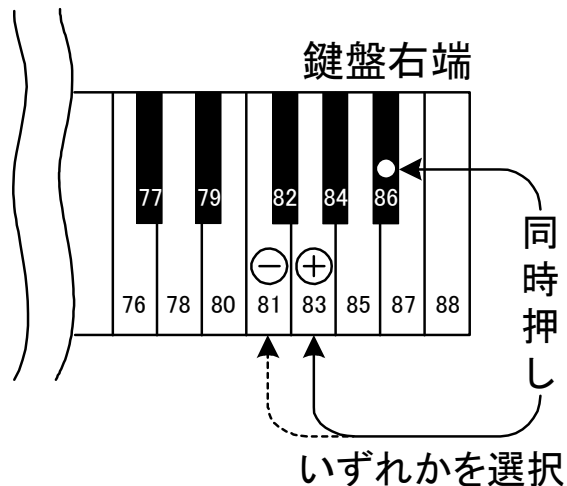
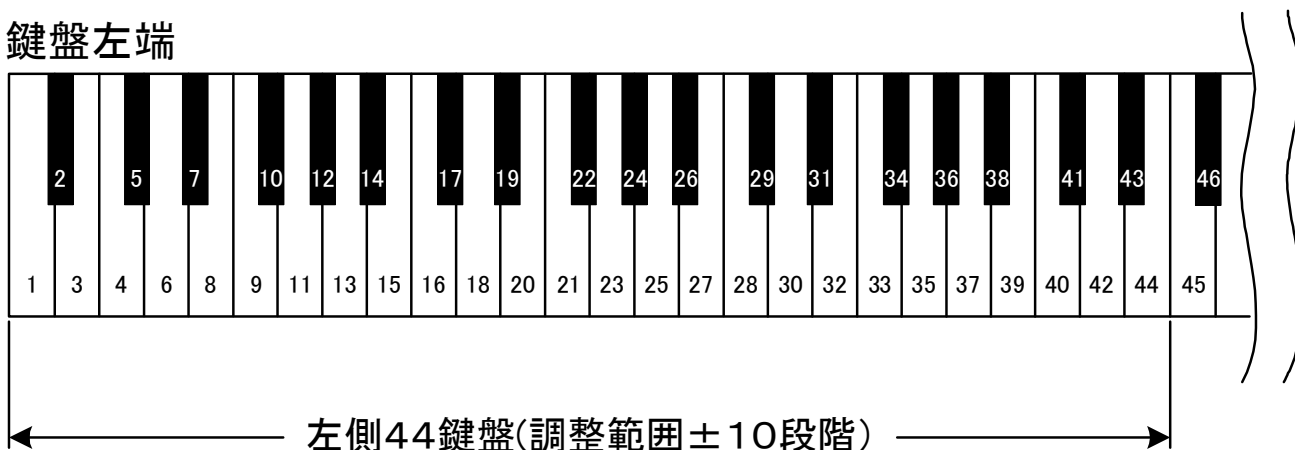
10-3 各鍵音量調整（左44鍵盤）

左側の44鍵盤において鍵盤ごとに音量レベルの調整ができます。
各鍵盤の調整範囲は±10段階です。

設定方法

- (1) レベルを上げたい時は黒鍵と＋印の白鍵を押しながら電源を入れます。
レベルを下げたい時は黒鍵と－印の白鍵を押しながら電源を入れます。
設定モードになったことをチャイムお知らせします。尚、黒鍵と白鍵は押したまままで次の操作に移ります。
- (2) 左側の44鍵盤より、音量レベルの変更をしたい鍵盤を押します。
1度押されることで、音量レベルが（1）で選択した側に1段階変更されます。
- (3) 変更を終了したら、押したままの鍵盤から指を離します。この時、変更した値が設定され、電源を切っても変更されません。

鍵盤左端



10-5 チューニング

出荷時は440Hzに設定されています。下記の操作で変更が可能です。

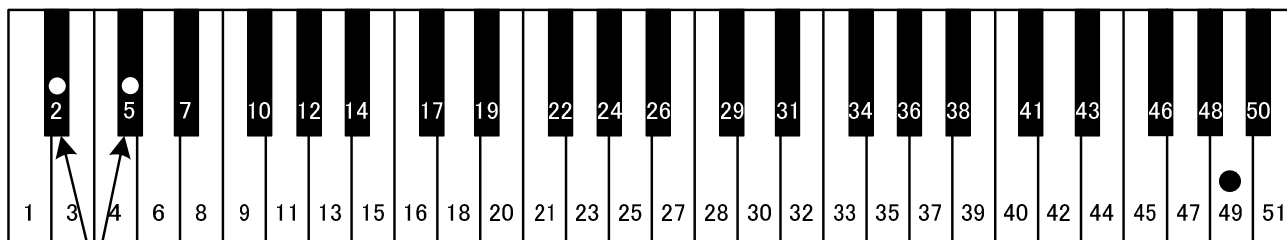
設定方法

- (1) ○印の鍵盤を押しながら電源を入れます。設定モードになったことをチャイムでお知らせします。尚、○印の鍵盤は押さえたまま次の操作に移ります。
- (2) 下記鍵盤表の`チューニングの設定`より●印の鍵盤にて本機が発音する音程を、+、-の鍵盤を使って設定します。

+	の鍵盤は1回の打鍵毎に約0.5Hz（最大+13Hz）
-	の鍵盤は1回の打鍵毎に約0.5Hz（最大-13Hz）

- (3) チューニングが終了したら、○印の鍵盤から指を離します。この時、最後に合わせた音程が設定され、電源を切っても変更されません。

鍵盤左側



押したまま電源を入れる

鍵盤の内容
これを押すと440Hzに戻る
-0.5 Hz
発音(427.0~440~453.0Hz)
+0.5 Hz

チューニングの設定

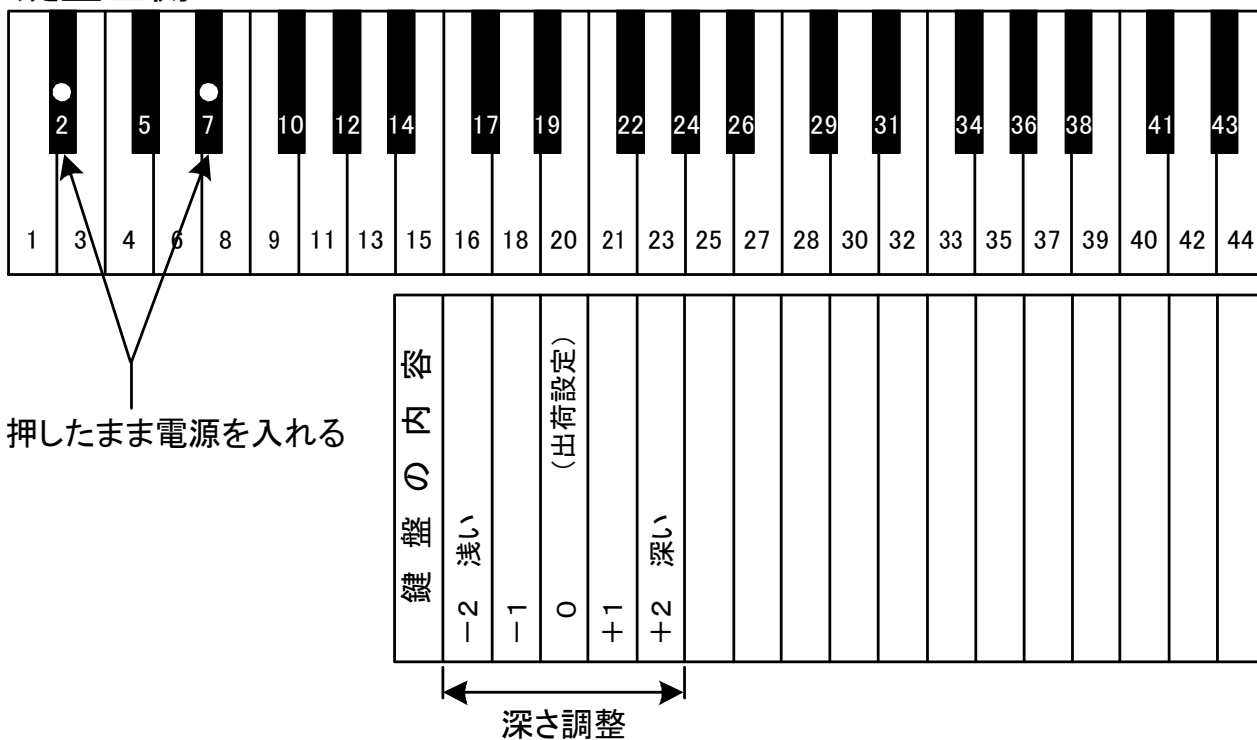
10-6 鍵盤深さ設定

鍵盤を弾いたときの発音する深さを設定します。

鍵盤深さ設定方法

- (1) 印の鍵盤を押しながら電源を入れます。設定モードになったことをチャイムでお知らせします。尚、○印の鍵盤は押したままで次の操作に移ります。
- (2) 下記鍵盤表より、発音位置を浅くしたい場合は一側を選択します。また、深くしたい場合は+側を選択します。発音位置を浅くすると発音タイミングが早くなります。
- (3) ○印の鍵盤から指を離します。この時、最後に選択した発音位置が設定されます。

鍵盤左側



押したまま電源を入れる

10-7 ペダル調整

各種ペダルの機能がオンする深さを調整します。
また、ダンパーペダルの機能が選択できます。

設定方法

- (1) ○印と●印の鍵盤を押しながら電源を入れます。調整モードになったことをチャイムでお知らせします。尚、○と●の鍵盤は押さえたまま次の操作に移りません。
- (2) 調整するペダルを踏み、機能をオンさせたい深さで止めます。
- (3) そのままの状態再生ボタンを押します。チャイムが鳴り、ペダルの深さを記憶します。
- (4) 下記鍵盤表よりダンパーペダルの機能を選択します。
ON/OFFはONとハーフとOFF、プロポーションナルは踏み込まれた量に合わせてダンパー機能が働きます。
※ON/OFFを選択時は、(3)で調整したペダル深さの少し手前(浅い位置)からハーフ機能が働きます。
- (5) ○印と●印の鍵盤から指を離します。

鍵盤左側



10-8 鍵盤連打設定

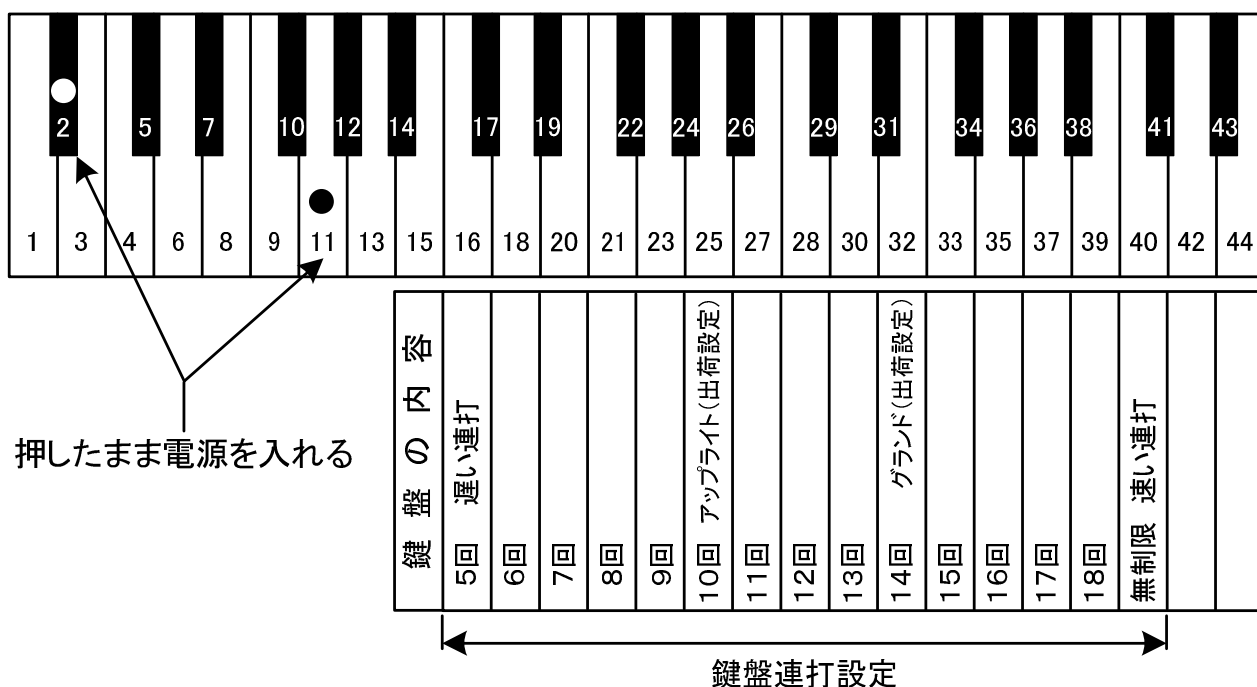
1秒間に連打できる回数を設定します。お手持ちのピアノの連打性能と同じ性能にしたい場合や回数を増やしたい場合などに設定します。

設定方法

- (1) ○印と●印の鍵盤を押しながら電源を入れます。設定モードになったことをチャイムでお知らせします。尚、○印と●印の鍵盤は押さえたまま次の操作に移ります。
- (2) 下記鍵盤表より好みの回数を選択します。
- (3) 選択が終了したら、○印と●印の鍵盤から指を離します。この時、最後に選択した回数に設定され、電源を切っても変更されません。

注意! 連打性能が少ないピアノで回数を多く設定しますと、たまに大きな音が出る場合があります。

鍵盤左側



10-9 センサー調整

メンテナンス等でキーボードユニットやペダルユニットのセンサー感度を再調整する必要がある場合に実施します。ピアノの状態やセンサーの状態は、温度や時間によって時事変化していきます。最適なタッチ感を得るために、定期的にセンサー調整を行って下さい。

設定方法

- (1) 録音ボタン、再生ボタンを同時に押しながら電源を入れます。録音ランプと再生ランプが交互に点滅して、調整モードになったことをチャイムでお知らせします。
- (2) ソフトペダルを一番深い位置までゆっくりと踏み込みます。ペダルが戻る際にピアノ音色以外の音が鳴りますので、確認できましたらダンパー（サスティーン）ペダルも同様に踏み込みます。踏み込む順番は問いません。尚、再調整が必要なペダルだけでも調整は可能です。
- (3) 鍵盤を一番深い位置まで一定の強さ（フォルテ程度）で全ての鍵盤を打鍵します。鍵盤が戻る時に発音されますので、確認できましたら次の鍵盤を打鍵します。打鍵する順番は問いません。尚、再調整が必要な鍵盤だけでも調整は可能です。
- (4) 打鍵や踏み込みが完了しましたら、再生ボタンを押します。録音ランプと再生ランプが消灯して、調整モードが終了したことをチャイムでお知らせします。

注意！ 必ず再生ボタンを押して、センサー調整を終了します。
誤って電源ボタンを押された場合、センサー調整は完了していませんので、最初からやり直します。

10-10 工場出荷設定

全ての設定を出荷時の状態に戻すことができます。

注意! 本設定を行いますと、お客様が録音された録音曲や、取り付け時に設定したタッチ調整などの設定内容がすべて消えて工場出荷の状態に戻ります。また、この設定を実施したあとには次頁の初期設定の操作が必要になります。必ず合わせて実施してください。

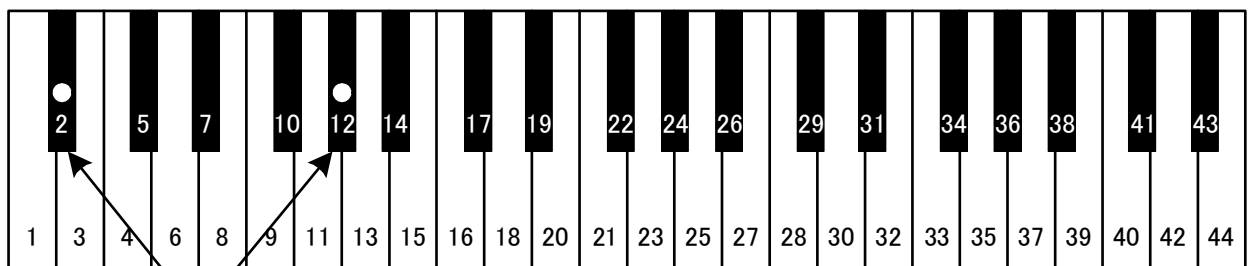
出荷設定内容

音色 : ピアノ
リバーブ : ルーム、レベル 1
エフェクト : OFF
トランスポーズ : OFF
4 バンドイコライザー : フラット (アプリ機能)
メトロノーム : 拍子=4、テンポ=120、音量=レベル3
録音曲 : 全て消去
初期設定 : クリア
タッチ調整 : 4
黒鍵音量調整 : 0
各鍵音量調整 : 全88鍵盤 ± 0
チューニング : 440Hz
鍵盤深さ設定 : 0
ペダル調整 : クリア
鍵盤連打設定 : アップライト10回、グランド14回
センサー調整 : クリア
オートパワーオフ : 無効 (アプリ機能)

設定方法

- (1) ○印の鍵盤を押しながら電源を入れます。初期化開始したことをチャイムでお知らせし、録音ランプと再生ランプが点滅します。
- (2) ○印の鍵盤から指を離し、録音ランプと再生ランプの点滅が完了した後、電源を切ります。

鍵盤左端



押したまま電源を入れる

初期設定操作方法

- (1) 工場出荷設定を行った後、電源を入れると録音ランプと再生ランプが交互に点滅して、初期設定モードになったことをチャイムでお知らせします。
- (2) ソフトペダルを一番深い位置までゆっくりと踏み込みます。ペダルが戻る際にピアノ音色以外の音が鳴りますので、確認できましたらダンパー（サステーン）ペダルも同様に踏み込みます。踏み込む順番は問いません。
- (3) 鍵盤を一番深い位置まで一定の強さ（フォルテ程度）で打鍵します。鍵盤が戻る際に発音しますので、確認できましたら次の鍵盤打鍵し、順番にすべての鍵盤でこれを行います。打鍵する順番は問いません。
- (4) 両ペダルの踏み込みと全鍵盤の打鍵が完了しましたら、再生ボタンを押します。録音ランプと再生ランプが消灯して、初期設定モードが終了したことをチャイム音でお知らせします。
- (5) 打鍵されていない鍵盤、踏み込まれていないペダルがあればチャイム音は鳴らずに、鍵盤は音程で、ペダルはピアノ音色以外の音が鳴りますので、音程の打鍵やそのペダルを踏み込んで、再度再生ボタンを押してください。

注意！ 設定を初期化するとタッチ調整も初期化されるため、ピアノに合わせて再度調整して下さい。

11. スマートフォン接続

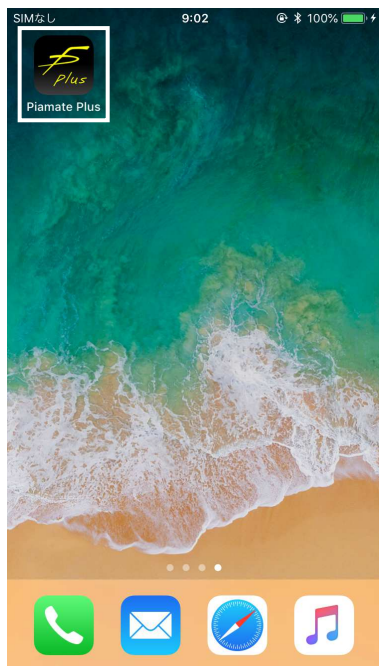
Piamate Plusはスマートフォンとの接続により、録音や再生、各種設定の操作が可能になります。

11-1 iPhone接続

接続方法

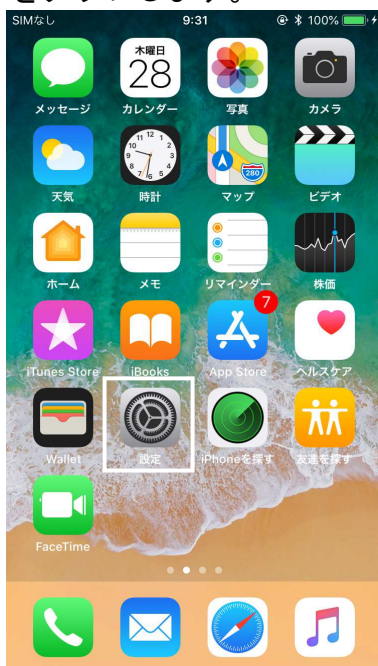
(1) 専用アプリ『Piamate Plus』をダウンロードします。
(対応OS : iOS10.0以上)

○ホーム画面に『Piamate Plus』が追加されます。



(2) iPhoneのBluetooth設定を以下のように変更します。

○ホーム画面より「設定」をタップします。



○Bluetoothをタップします

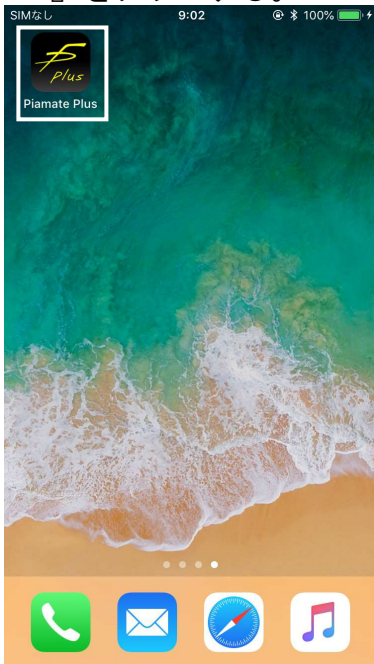


○Bluetoothを「オン」に設定します。

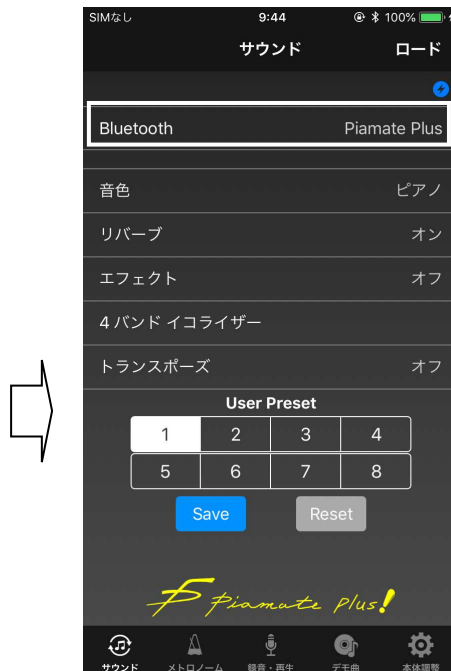


(3) 専用アプリ『Piamate Plus』を起動します。

○ホーム画面より『Piamate Plus』をタップする。



○「サウンド」画面が表示される。



⚡のマークはPiamate Plus本体と接続中であることを表している。

「Piamate Plus」になっていることを確認する。
「未接続」となっている場合は、下記(4)の方法で接続させる。

(4) 専用アプリのBluetooth設定を以下のように変更する。

○Bluetoothをタップする。



○Piamate Plusをタップする。



○「接続済み」に変わる。



(5) Piamate Plus本体の電源ランプが点滅を開始したら接続完了となります。

11-2 Android接続

接続方法

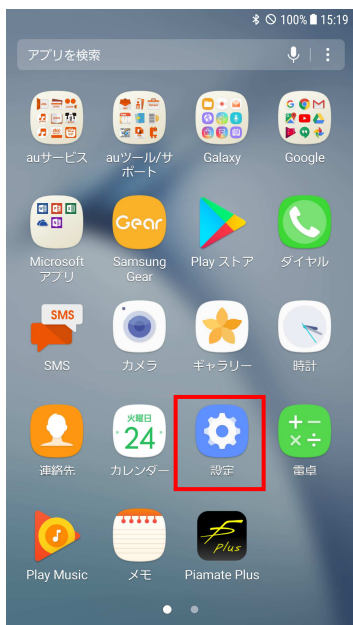
(1) 専用アプリ『Piamate Plus』をダウンロードします。
(対応OS : 6.0以上)

○ホーム画面に『Piamate Plus』が追加されます。



(2) Android端末のBluetooth設定を以下のように変更します。

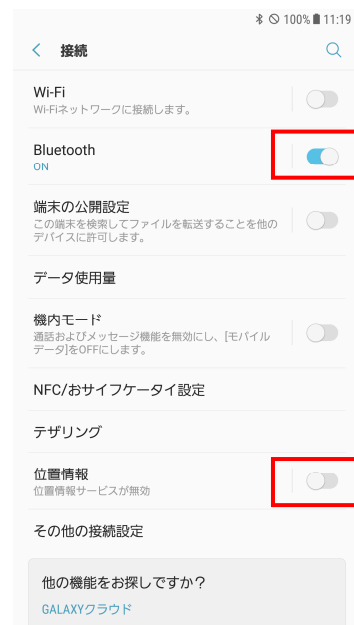
○ホーム画面より「設定」を
タップします。



○接続をタップします



○Bluetoothと位置情報を「オン」に設定します。



(3) 専用アプリ『Piamate Plus』を起動します。

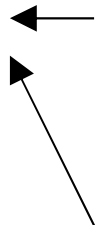
○ホーム画面より『Piamate Plus』をタップする。



○初回の起動時に位置情報へのアクセス許可の画面が表示されるので「許可」をタップする。



○2回目以降はサウンド画面が表示される。



⚡のマークはPiamate Plus本体と接続中であることを表している。

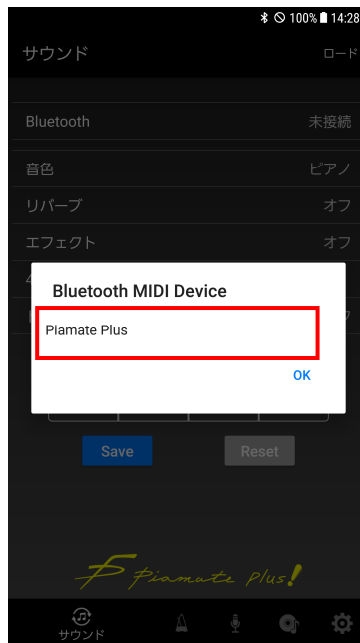
「Piamate Plus」になっていることを確認する。
「未接続」となっている場合は、下記(4)の方法で接続させる。

(4) 専用アプリのBluetooth設定を以下のように変更する。

○Bluetoothをタップする。



○「Piamate Plus」をタップする。



○「接続済み」に変わり、OKをタップする。



(5) Piamate Plus本体の電源ランプが点滅を開始したら接続完了となります。

注意！ アプリには、Bluetooth接続を行うために“位置情報”、録音・再生時には“ストレージ”のアクセス権限が必要ですが、アプリ内では位置情報は使用していません。

尚、アプリの取り扱いにつきましては、下記の弊社ホームページにアクセスし、「製品情報」－「取扱説明書」内にあります専用アプリマニュアルダウンロード欄から『Piamate Plus』のマニュアルをご覧ください。

<http://www.nissinel.co.jp/>

1 2 . U S B

市販のUSBケーブル（A-miniB）を使用してパソコンやiPhone・iPadとの接続が可能です。接続すると自動的にMIDIドライバがインストールされます。

iPhone・iPadの接続には別途Lightning-USBカメラアダプタも必要になります。

注意！ Android端末との接続はサポートしていません。

●パソコンと接続した場合

パソコンと接続することでパソコンのMIDIデータをPiamate Plusの音源で鳴らすことができます。また、Piamateで演奏した情報をMIDIデータとしてパソコンに送信して、データの編集や保存ができます。

MIDIチャンネルの仕様

Piamate Plusでは、鍵盤による演奏データをMIDIチャンネル1へ出力、録音したデータの再生はMIDIチャンネル2を使用、ペダルの共鳴音はMIDIチャンネル3と4を使用しています。パソコンからPiamate PlusへMIDIデータを送る際は、チャンネル1、2、3、4を避けてMIDIメッセージを送信して下さい。チャンネル1にデータを入力して音色が変更された場合は、音色選択ボタンの再投入を行えば、元の音色に戻すことができます。

MIDIとは

Musical Instrument Digital Interfaceの略で、楽器の演奏情報や音色の切り換え情報などを伝送することができる世界統一の規格です。

●iPhone・iPadと接続した場合

専用アプリを使って、簡単に操作や設定を行うことができます。

1 3 . B l u e t o o t h M I D I

Piamate Plusは、Bluetooth MIDI規格に対応しており、GarageBandなどのiPhone/iPad/MACの音楽制作アプリや、Androidの音楽制作アプリとワイヤレスで接続し、MIDIデータを入出力することができます。

Piamate PlusをBluetooth MIDIで接続するには、各アプリのBluetooth MIDIデバイスの設定で、“Piamate Plus”を選択して下さい。

注意！ WindowsのBluetooth MIDIはサポートしていません。

13-1 MIDIインプリメンテーションチャート

ファンクション	送信	受信	備考
ベーシック電源ON時	1	1-16	
チャンネル設定可能	x	1-16	
モード電源ON時	3	3	
メッセージ	x	x	
代用	*****		
ノート	21-108	0-127	
ナンバー: 音域	*****	0-127	
ベロシティ ノート・オン	○	○	
ノート・オフ	○	○	
アフターキー別	x	x	
タッチチャンネル別	x	○	
ピッチ・ベンド	x	○	
コントロール	○	○	ダンパーペダル
チェンジ	○	○	リテネートペダル
	○	○	ソフトペダル
	○	○	バンクセレクト
	○	○	モジュレーション
	○	○	ポルタメントタイム
	○	○	データエントリ
	○	○	ヴォリューム
	○	○	パン
	○	○	エクスプレッション
	○	○	ポルタメント オン/オフ
	○	○	リバーブ
	○	○	コーラス
	○	○	オール サウンド オフ
	○	○	NRPN LSB, MSB
	○	○	RPN LSB, MSB
プログラム	○	○	
チェンジ:設定可能範囲	*****	0-127	
エクスクルーシブ	○	○	
:ソング・ポジション	x	x	
コモン :ソング・セレクト	x	x	
:チューン	x	x	
リアル :クロック	x	x	
タイム :コマンド	x	x	
:ローカルON/OFF	x	x	
その他 :オール・ノートオフ	x	○	
:アクティブセンシング	x	x	
:リセット	x	x	
備考			

モード1 : オムニ・オン、ポリ
 モード3 : オムニ・オフ、ポリ

モード2 : オムニ・オン、モノ
 モード4 : オムニ・オフ、モノ

○ : あり
 x : なし

14. 本体仕様

型式	RB-9000	
同時最大発音数	247音	
音色数	128音色	
音源メモリ容量	1GByte	
内蔵デモ曲	10曲	
メトロノーム	拍子、テンポ、音量の調整が可能	
録音・再生	録音：10バンク、録音容量 約10,000音／バンク	
	再生：変速再生（0.5～2倍）	
ペダル	ダンパー	プロポーションナル、 ON／OFF（ハーフ対応）
	ソフト	ON／OFF
リバーブ	ルーム、ホール	
エフェクト	ロータリー、コーラス ディレイ	
トランスポーズ	±24半音	
4バンドイコライザー	±10dB	
チューニング	440±13Hz（427～453Hz）	
各種設定・調整	タッチ調整、鍵盤音量調整、チューニング、鍵盤深さ設定 ペダル調整、鍵盤連打設定、調律など	
外部端子	アナログ	ヘッドホンジャック×2、ライン出力×1
	デジタル	USB2.0スレーブ（MIDI）
無線インタフェース	Bluetooth4.0LE	
電源電圧	DC+9V（専用ACアダプタ）	
消費電力	6W	
本体寸法	幅143mm×奥行き79mm×高さ27mm（突起物含まず）	
付属品	ヘッドホン、ACアダプタ、取扱説明書（本書）	
専用アプリ※1	Piamate Plus （iPhone：iOS10.0以上、Android：6.0以上に対応）	
オプション	スピーカ	

※1：専用アプリをスマートフォンにダウンロードすれば、各操作や設定・調整などがスマートフォンの画面上で行えます。

●製品の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

15. 故障かな？と思ったら

●録音ランプと再生ランプ点滅のまま全く動作しない

- ・工場出荷の状態ですので、全鍵盤をフォルテでの打鍵と全ペダルの踏み込みを行った後、再生ボタンを押して下さい。（27頁を参照）

●電源が入らない（電源ボタンを押しても電源ランプが点灯しない）

- ・ACアダプタはコンセントに差し込まれていますか？
- ・音源BOX裏のDC INにACアダプタジャックが差し込まれていますか？
- ・それでも電源が入らない場合は、ACアダプタをコンセントから抜き、修理をお買い上げ店へ依頼して下さい。

●スマートフォンと無線接続ができない

- ・スマートフォンでBluetooth設定をしていますか？
（11-1/2章の（2）を参照）
- ・専用アプリのBluetooth設定がオンになっていますか？
（11-1/2章の（3）（4）を参照）

Android端末の場合には下記についてもご注意ください

- ・位置情報とBluetoothの設定は 11-2章の（2）のように「設定」画面からオンにしていますか？アプリを起動したときにも聞いてくる場合がありますがそこでオンにしてもBluetoothが使えないことがあります。「設定」画面からオンにしてください。
- ・アプリのサウンド画面でBluetooth MIDI Deviceを選択する際に『Piamate Plus』を選んで「(接続済み)」となってから「OK」をタップしていますか？『Piamate Plus』をタップせずに「OK」しても接続されません。
（11-2章の（4）を参照）
- ・Piamateはペアリングをせずにスマートフォンと接続します。ペアリングをすると接続できない場合がありますので、ペアリングをしてしまった場合は「ペアリングされたデバイス」から『Piamate Plus』を削除してください。

●音が鳴らない

- ・鍵盤を弾いて音源BOXのインジケータが点滅しますか？
- ・ボリュームが最小になっていませんか？
- ・ヘッドホンジャックは最後まで差し込まれていますか？

●特定の鍵盤で音が鳴らない、大きい、小さい

- ・センサー調整がずれている可能性がありますので、センサー調整を行って下さい。それでも直らない場合は、お買い上げ店へご相談下さい。

●音が抜ける

- ・ダンパー（右）ペダルを踏みながら、多くの鍵盤を弾く場合などに同時発音数が足りなくなり音が消えることがあります。これは故障ではありません。

●チャイム音が鳴らない

- ・指定された以外の鍵盤も押されたまま電源を入れていませんか？
- ・押さえたままの鍵盤から指が離れていませんか？

●消音していてもピアノから生音がもれる

- ・ストップレバーを手前に引いていますか？
- ・和音を強く弾かれた場合に、ピアノの音ももれることがあります。

●ペダルを踏んでも効かない

- ・センサー調整やペダル調整がずれている可能性がありますので、センサー調整やペダル調整を行ってみてください。それでも直らない場合は、お買い上げ店へご相談下さい。

●メトロノームのテンポが設定されない

- ・テンポの入力で4ケタ以上の入力をしたり、3ケタ未満の入力の場合は設定されません。その場合はもう一度最初の手順から設定し直して下さい。（16頁を参照）

●電源が突然切れた。いつの間にか切れていた

- ・オートパワーオフを設定されていませんか？
設定の確認や変更は専用アプリから行います。

16. 末永くご使用頂くために

本製品の性能を損なうことなく、末永くご使用頂くために、ピアノの「調律」や「整調」と同様に、下記のお手入れを定期的に行っていただきますようお願いします。

1. キーボードユニットやペダルユニットのセンサー部の清掃
2. キーボードユニットの高さ調整やペダルユニットの位置調整
3. キーボードユニットやペダルユニットのセンサー調整

17. アフターサービス

ご購入後、下記の期間、正常な使用方法において発生した故障につきましては、無償で修理いたします。故障した場合にはお買い上げになった販売店へご連絡下さい。

	保証期間
本 体	1 年 間
ヘッドホン	6 ヶ 月
A C アダプタ	6 ヶ 月

ニッシンエレクトロ株式会社

〒188-0014 東京都西東京市芝久保町4-4-32
<http://www.nissinel.co.jp/>

■お問合せ先について

ご不明な点などがございましたら、下記お問い合わせ窓口をご利用ください。

◆お問い合わせ窓口

TEL. 042-465-9321 / E-mail. info02@nissinel.co.jp
電話受付時間 9:00~12:00 / 13:00~17:00
(土曜、日曜、祝日及び弊社規定の休日を除きます。)

故障と思われる場合については、お買い求めいただいた販売店までご連絡ください。